

令和4年度 第一回 坂本小学校運営協議会議事録

- 1 日 時 令和4年7月13日(水) 10:00~12:00
- 2 場 所 坂本小学校図書館
- 3 参会者 石井会長、根本副会長、岡村委員、市村委員、澤田委員、白井委員
齋藤委員、藤谷委員、脇本委員、佐藤委員、工藤委員、秦指導主事
荒井校長、山口副校長、飯井専任

4 議 題

- (1) 会長挨拶 会長 石井 達郎 様
- (2) 委嘱状授与 西部学校教育事務所主任指導主事 秦 秀治 様
- (3) 学校経営方針の説明 校長 荒井 正史
- (4) 児童の様子から 児童支援専任 飯井 武司
- (5) 授業参観
- (6) 意見交換(授業参観を終えて) ※次ページ参照
- (7) 地域学校協働本部より

①ふわふわルームについて

- ・さまざまな理由で教室に入ることが難しい子どもが使用する教室として「ふわふわルーム」を設置している。養護教諭や児童支援専任が主に担当しているが、子どもたちにとってはより多くの支援が求められる。地域の方々や学生に携わっていただく体制を整えていきたい。

②ふれあい教室について

- ・これから学校・地域コーディネーターと学校とで計画・準備を進めていく。
- ・コロナによって、2年間開催できなかった。すぐに全てをとすることは難しいかもしれないが、子どもたちも楽しみにしているので、ぜひ皆様のご協力をいただきたい。

(8) 今後の学校運営協議会について

- 第2回 令和4年10月28日(水) 10時~ 地域学校協働教育について
- 第3回 令和4年12月7日(水) 10時~ 学校評価について
- 第4回 令和5年2月2日(木) 15時15分~ 委員と全職員との交流

(9) 副校長より

学校運営協議会委員の皆様からのご意見（会議後のアンケートも含みます）

【授業参観をとおして】

- ・子どもたちが明るく、元気があってよい雰囲気である。挨拶をよくしてくれる朗らかな学校であると感じた。
- ・興味が続く授業で、子どもたちが落ち着いて学習に取り組んでいて、安心した。
- ・1年生からタブレットを使用していること、扱い方がとても慣れていることに驚いた。
- ・タブレットを使用して自分の考えを整理していた。情報を活用する能力が身に付くように思う。その一方で「書く」力を身に付ける時間が少なくなることが心配である。
- ・学校内外の「環境美化」についての意識も高められるとよい。
- ・教科と教科をまたぐ、横断的な学習の展開もしている学年もあった。
- ・教育の仕方は時代とともに変わっていくので、対応する先生方も大変だと思った。

【特別支援について】

- ・一般学級のなかでも、座席の配置の工夫など個に応じた支援を行っていた。無理にみんなと同じようなことはさせず、周囲の子たちも、そのことを理解し見守っているのがよかった。
- ・個別支援学級ではクラスがいくつもあり、個に応じた支援ができていて感心した。
- ・長年、坂本小学校を見てきているが、「ふわふわルーム」の設置など、自分の居場所を見つけることができる子どもが増えてきているという印象である。

【ふわふわルームについて】

- ・教室に入ることが難しくても、その子にとっての居場所があることはとても大事なことだと思う。
- ・ふわふわルームに通っている子どもたちが、クラスの友だちなど周囲の子どもたちともよい関係を築いていると感じた。周囲の子どもたちも、こうした支援を自然なかたちとして理解しているのだと思う。
- ・とても必要な場所なので、ボランティアの先生が毎日いるとよい。ボランティアも講習などである程度の知識を身に付けることも必要である。

【今後の学校運営協議会について】

- ・今日の会をとおして、皆さんと親近感をもつことができた。こうした皆さんと力を合わせて坂本小学校がよりよい学校になるようにしていきたいと考える。
- ・挨拶がしっかりとできていた。我々大人も「地域の中で子どもを育てていく」ことの大切さを心に留めて、元気に明るく子どもたちに挨拶をしていきたい。

- ・今年一年間ですべてを行うのではなく、学校の特色や子どもたちの実態をよくとらえながら取組を進めることによって、子どもたちや保護者、先生方が学校運営協議会を立ち上げてよかったと思えるようなものをつくっていききたい。
- ・子どもたちが自分たちの地域をどのように見ているのかを発信してもらって、私たちがどのようにかかわっていくかを考えていくのもよい。子どもたちのなかにはSDG sに主体的に取り組んでいる児童もいる。タブレットやI Tがあることで子どもたちの発信も広がっていくと考える。
- ・子どもたちにとって将来必要な力をどのように身に付けていくことがよいのか、学校とキッズとが情報を共有しながら、子どもたちに沿った支援を進めていく必要があると考える。
- ・小学校から中学校へのつながりについて連続性を考えていくべきである。子どもたち同士の交流だけでなく、教職員の交流も深めていきたい。

